

9



三丁巻

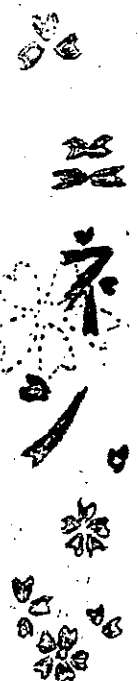
NO 145

98

清き者は勝利者よ。

私たちも清き心の持主となつて

今年か勝利者となりませう。



ワラビトリ

石幡香子

私ハ日エウ日ニミンナデワラビト
リニイキマシタ。ソシテ山ニツク
トスグ。オクワシヲタバタリノリ
マキラタバタリシテアソビマシタ。
スコシタテカラワラビヲ。十パト
デカヘリマシタ。

ニゲテ。ミメノハマヘンテ。スッ
バグサヲ少シトッテカラ。天ノミヲ
山ヘノボツテトリニイキマシタが
ナイノデタユノミヲトッテイタラ
アンケンガイナイトデヨンドラ
オイトヘンヅラシマシタ。ヘン
ジヲシタ方ヘイダラソコニキマ
シタ。
アンケンガカタナデハララキラ
ウトシタラ。オキデサカナヲ

三カヅキ山

沼良吉

ボクタチが三カヅキ山ニスッバグサ
ヲトリニイダラ。人がオコッダノデ
イヒマシタ。アアアアアト

テ斗タ人が「アアアアア」ト

サカイウラ

オキヤマテツジ

タカラ モツト、カナメガオレラ

カヨイセンデサカイウラニツギマ

ブダノデケンクワシマシタ。

シタ。ソウシテシゲトカナメト

スルトポシチャンガトマトラモイ

山ニイキマスト、マヘニ一年生

デボマシタ。

ノ時タトコロダガトオモテ

●キヤウダイ。

ヘノホッテイクト、キウチンゲ

ウチノヒロシハ、オウチニイケバ

一、ハイアリマシタ。

ハイカラサン タエコチャン

ゲカキレイナキウチンダサラミ

私が学校カラ イツモオツハイ

ケテ、トッテマルカラコノキウチ

カヘルトキ ノンデキル

ンダサラモテ、トイヒマシタ。イ

イツモムカヘニオトウトイモツト

ドト、イフト、マダシゲガトッテ

キテクレル カハシナ

ヤルカラオマヘモテ、トイヒマシ

マホリエミ子

尋三の綴方

三年生になつて

奥山求

僕は三年生になつたからうわしい。うわしい、とてもうわしい。二年生の時はやさしくつたが、三年になつたらなかながむずかしくなつた。甚口先生がおくへます。昨日中道さんがお出でになりました。中道さんはまだ来たばかりだから分りません。だからみんながおしへてあげませう。

横山セツ

私は三年になつたのがうわしくて、あまりません。せんに私たちの綴りも、のちにくさい。わし一人もなかつたので、大さううわしく思ひます。けい、でも三年生になつてからなほむずか

しくなつたから今度はみんならく、いするからうわません。私はみんならく、いしないううんとべんきやうをうてもうひたいと思ひます。

石津嵩夫

僕は四月四日から三年生になりました。なつてからうわしくやうで、校長先生がもうみんは兄さんやわえさんになつたから、今度は新しくみかづ、一年生の手本にならなければいけません。と言ひました。又僕たちがわろい事をすると、一年生はまた何かわからなかつたので、何でもまねをするから、い、い、と、をうて一年の手本になるやうにと

神澤とみ子

三年生になつてから笹口先生にお
まはつてゐます。私は先生にいろいろ
おまはつておもしろくせんきやう
てえらい人になりたいです。せ小から
遊ぶ時にはよく遊んでせんきやうす
る時には先生の言ふ事をよくきいて
へんきやうをすま事にしました。

横山秀雄

ぼくたちは今まで上野先生でいらが
三年生になつたら笹口先生になりま
した。そうして修身は永田先生です。
笹口先生はおもしろい先生でいまか
めるとおはなしや東京の三年生が
いた綴方や本をよんでく小ます。

私は今まで二年生でした。今度私は
重田弥生

三年生になりました。三年になつた時
みんなせきに入つて先生がみんなは
もう兄さんやおえさんになつたんだ
から一年生のふし本になるやうだと
いひました。私はもう三年生になつた
から今度は一牛けんめいせんきやう
して四年生になるときもつとせんき
やうして優等をとらうと思ひます。

藤滝一郎

私はもう三年生になりました。こんど
はなかなかむずかしくしてしまひま
んかう勉強を一つかりなけんけん
表にもなけんせんさんけんけんは級
かしくて私はできません。私は一つか
りけんけんやうしておほくくなつて東
京けんけんといと思ひます。

四年生の綴方

四年生になつた。

磯崎静夫

いよいよ四年生です。こんどはどの
の教室だろうとかんがへてゐるとだ
れかが六年の教室だと言つた。
六年生の教室はどんなだろうと思つ
てその朝はやく學校にいつてみま
すとげをばこもかばつてゐるし、も
ううれしくてたまりない。
中にはいるとなんだかい、きもちが
した。こんな所でけんきやうをしな
ければもつたいない。さうかんがへ
ればかんがへるほどけんきやうした
くなる。先生はおなじひをせんき
す。それから理科は笹口先生です。
珠算は永田先生、算術は校長先生で
す。そのあとにはみんをひさ子先生で

後藤茂義

す。僕たちは二組になりました。そ
して僕のとまりは和夫さんです。
いよいよ四年生らしい。
此の間内地で入學したとおもつたら
もう四年だ。しつかりしないと三年
生のなまにはいる。
せんけんかんかへてもうらしい。僕の
心はおびつてゐる。うれしい四年だ。
又算術も珠算と理科がふえた。それ
だからじゆげふもふえた。教室もか
つた。先生も又やさしいひさ子先生
どうれしい。
僕はこんどけんきよし君となりんだ。
又こんどは當番でもなまけるものか
ないようだがどうだろう。今日の當
番をよく見てやれ。

さもう四年だ。又いつしもうけんめいにやうてこんどこそはゆるとをとりたい。

土屋せい子

私はこの間の三月二十五日から四年生になつた。四年生になつたりをんとなく大きくなつたような気がした。又理科、裁縫、珠算の三つの學課がふえたから三年生よりもうんとべんきやうする。

四年生になつたら教室も第五教室にかはつた。三年生の時の教室よりもすつときれいだ。がうスもびか／＼光つてゐる。天井にもす／＼やごみが一つもない。

又四年生になつたら、つくゑがふえた。えしてならびかへれた。私はこんど私のすきなてるちやんとやらんだのでうれしくてたまうない。

尋五級方

潮千村

藤巻 清

日の午後から僕は先生につれられて潮千村に出かけた。海岸へ来てかかれ、夫夫潮千村を始めた。僕は水へ入つた。するとコンベイトの間、亦貝がわつた。僕はカウかと思つてに取つて見ると重かつたのでせれみかちやんに見せるとうらやましうな顔をしました。僕はみのちやん八まいをとりに行かうといふといふといつたので二人で出かけたが、つも取れなかつた。こんどはシヤエと取りに行つたら三つばかり取れた。ほかの生徒も盛んに取つてゐる。

私たちの學校 内海幸子
私たちの學校の名前は、大村尋常小學校と書いてあります。學校は大村の中ほどにありまう。

うんどう場には行幸記念ひや、きかいたひや、ろくほく、すべりだひや、又記念の本もありまう。

教室は八つで私たちの教室の名前は第五教室と書いてあります。生徒のすうはおよそ四百人近く居り男の先生が七人、女の先生が二人おいでになりまう。學校のきよくは、門からだまつてでないことや、先生のをしへをまわることや、れいぎをたゞしくすることなど色々あります。

お茶當番は高等科がします。湯のみ所は高等一年のよこにありかんごは高等二年がします。かおは五年生の教室の前であり朝の始まりは七時四十分でお晝からは十二時四十五分です。

た。すると水田先生がふえをふいたのでみんを集つて歸つた。僕は歸る途中亦貝はおいしいだらうと思つた。

私は一考です。 菊池 登代

私は一考です。私からだは赤くせ中の上に一考とほつてあります。それにもうの子供は私をすてたり、又はなめたります。私がおぢいさんや十歳をなのお母さんがおつかひしやいます。子供はどんな子がするのですか。それはおかしくな子がするのですか。私をむかひては、いけません。ヤブでも百円かも家私道があつてこそあつて、やごもつてお晝さんどうぞ私を大切にしてください。

野球 浅沼 傷

休日の事である。私が東町の防風林で

んで居たりさくをさんが東町と西...
と野球があるから見に行かうと...
ので行った。市場の前へ来た...
すけさんがさくをさんと私と二人...
お前もさくもチームに入れとい...
うて入った。團長はけいすけさんで...
町の團長は喜作春さんです。私たち...
は行進や審判に人と英語でか...
いである。花札をもつてフレート...
東町とどなりました。秘匿の選平は...
ッパは、けいすけさん、キヤ、ケは奥山良...
ニさん、一もあはさくをさんと一...
を居るもあはさくやん、シート、僕...
フト正道さん、老若一は直夫君と...
ら成長やん、多外野でした。一回...
は——は、秘匿が勝ち二回野は...
日でも——は、秘匿がまけ、一回野は...
日でも——は、秘匿がまけ、一回野は...
日でも——は、秘匿がまけ、一回野は...

尋六の綴方

僕等は六年生

海野輝雄

暖い春を迎へ、新しい學級に上りて...
の喜びは僕等の顔にあふれる。六年...
は最上級だ。しつかり勉強しやう。本...
で図画など新しくなつて、なるとな...
れしい。運動場もうれしうに遊ん...
て居る。一年生の姿は、かほいらしく感...
ずる。ほんとうに新学期はうれしい。又...
笑しい気持ちがある。あ、暖い春よ、僕等...
はもう六年生。

生にいかめしめられたりしたこと、頭の...
中になくさんのこつて居た。僕もいよ...
いよ六年生になつたから、今度はこの...
ちがだれにもやらねえ、いばつた...
ものだとなつたら、鉄天君がお前あま...
りいばる。居よこいつ、間もな、武は...
はじまつた。武の中ほどで校長先生が...
立つて、答は、今度一年上の兄さんや姉...
さんには、存るから、さうよ、下級生をか...
は、いばつて生徒のお手本になるやう...
にしませよ、とお話なしました。僕はそ...
れをきいて、存るほどなあと、思つて心...
をなやました。

全

藤井不二雄

卒業式の感

小松壽太郎

三月二十四日に卒業式があつた。僕...
も今日から六年生になるのだと思...
いながら、學校に来た。今まで持の六年

四月二十四日は卒業式であつた。本...
業生は暇に決まらぬ。即ち、卒業し、...
歌つて居る。あ、卒業生は先生と別れ

このがっらいのであらう。卒業生をな
ごめゆるやうに、僕等は愛の光を散ら
す。等しいつかは卒業生になる時が来
のだ。大いに僕等も勉強しやう。卒業
生はいつまでも先生の恩を忘れな
でもつと勉強するであらう。今は日本
の非常時である。一心にはげんと日本
の国を人にあたり、もしも天皇陛下を
御安心させるやうにするのだ。

潮干狩

毎田みつ

昨日村松ふさちやん、ふさちやんの
お母さん達と一共につり浜に潮干狩
に行きました。つり浜につくとお弁当
を日陰の處に置いて、ひさちやん、ふ
さちやん、お母さん達とつり浜に行きました。
つり浜に来たのは私達ばかりかと思
つて居ました。すこしたつといつの

間に大せいの人がきてあてりを取
つて居ました。遠くから見ると、くもの
子が散つて居るやうです。だん／＼奥
深く行くにつれて、むらめやしや、こ貝
が大きくなつて来ました。ふとあか貝
を見つけて、おたふさちやんが石につ
まづいてころんだので、ふさちやん早
く立たないと洋服がよごれるよと私
が云ふと、ふさちやんは「お前達が居る
から立たないよ」と云ふので、私が其處
からどくとふさちやんは急に立ち上
つて、あ、あか貝があつた／＼と手を
いって喜んで居ました。あとで其のこ
とを皆んなに云つたら皆大笑いしま
した。



高一

僕は高一年になつて或覺悟がなければならぬ。僕は尋常六年の時よりも
もつと勉強しなければだめだとかたく決心した。其の時だけ、きめても
あとまで續かなければ、どうしても成功は出来なやと思ふ。高一年に在
ると学校の學科も一生懸命やらなければいけない。高一になつて、これだ
けの覺悟がなければだめだ。

兎玉

章

糸はあの長い／＼尋常科を終へて、いよいよ高一年になりました。
高一年になつてからは今まで一年から六年まで、あまく先生におまはり
ました。だから、もう高一年にもなつたから今までと、ちがつて一生懸
命に勉強をして六年に出来なかつたかはりに、にくぬいぶんするやう
にして毎夜勉強してゐます。私等高一年二年になると、なんでもやり
ます。

大友

たつ子

鈴木

水

芳

雄

僕等も尋常科を卒業した。だが氣が未だ變だ。これからしつかりやら
う。今日この時間ペンももらつた。これでしつかり書こう。これからは

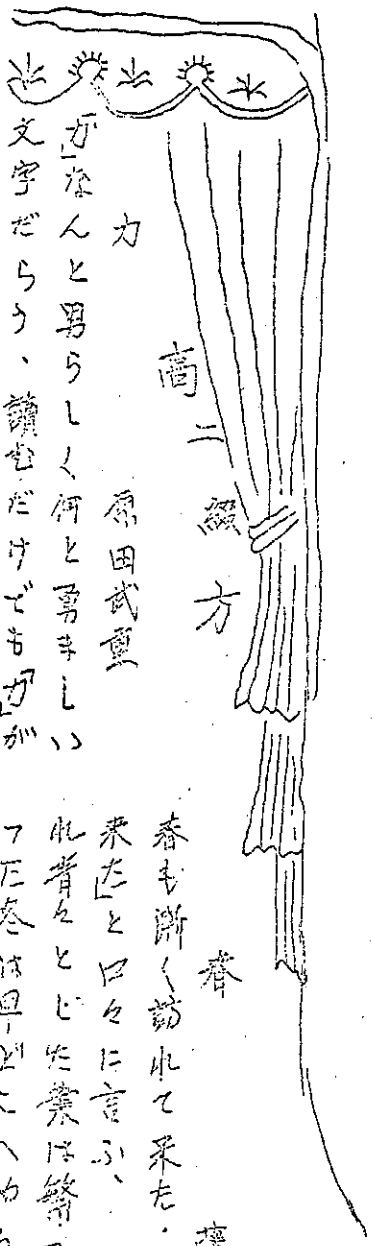
まも水産農業をどあつて面白く勉強が出来る。

小祝 温子

尋常科を卒業し、これから高等科へ進級したのだ。いやでも、おうでも六年間勉強してきて、中でも女學校、中學校へ入學した人もあります。高等科は科目もふえ、先生のお手傳もいろいろあり、下級生もみてあげなければならぬ。これから二年間の間、先生のいふ事をよく聞き、今までよりも一生懸命に勉強して優等生にならう。ふえたものは、農業、洋裁、家事、手藝等がある。其の上に、お茶當番等がある。一週間ごとに便所掃除がある。高等科になるにつれて、いろいろの仕事もある。だから、なるだけ一生懸命に何事もやらなければならぬ。先生も、かほりましたから先生のいふ事をよく聞かされればならぬ。

日高 雪子

私等は尋常科を終へて高等科になったのだ。六年の時、優等になれなかった。高等科になつて、うんと、ふんばつて優等にならうと思つておる。私が、ほうびも、もらつたら、父に少女俱樂部を毎月とつてもらう事になつておる。私も父のことは本氣にしていまいけれど、まきと、かつて下さるか、ぬんまおしとあいた。少女俱樂部



力 高 二 級 方 原田武重

「かなん」と男らしく、何と勇ましい、文字だらう、讀むだけでも「か」が漲る、それ両手をうんと握りしめて、みよ、何時の間にか口は堅く結ばれ、肩は張り上り、全身の緊張を覚えるであらう。「か」が丸満したのだ、百万の力、兵も「か」が染れと力むやうな勇氣が溢れる。この力の前には如何なるものも恐れ戦く、「か」実に貴いものでないか、「か」ある人間は何時でも勝利者である。國民擧つてこの自覚にも、努力をする時國家は隆々と繁え、國民は歡喜に満つるであらう。

春 藤滝やす

春も漸く訪れて来た。「春」が来た春、か来たと口々に言ふ、山は霞に包まれ、春々とし、夕景は終つて、今まで感かつた春は早どこへぬり、暖い時候となつて景色もよい。春は思くもなし、春もなほ、時節がある。尚、思くもなし、春も一層よい時だ、楽しい春よ、あ、希望をこめて。

傳染病 上部 國男

日本を守る武蔵は、澤山あるけれど、我々の生命を奪はふとして迫つて来る敵に、鉄火を以てするよりも、尚猛烈に、忍術を会得したよりも、一層巧に忍んで、近寄るものがある。そして、我々同胞が、この敵の為に、毎年幾十方といふ大勢の人が斃られてゐる。そもく

其の強敵は何か曰く「洞窟菌」傳染病を發生される眼にも見えない小さい敵である、諸君お互に傳染病の予防に氣を付けやうではありませぬか。

一、帝都まはなれて 程遠く
太平洋の 中央に

今後の戦の 守護島と、
神の給ひし小笠原

二、光見の明 遠ひなし
時は戦時の好機を

向ふは〇國 海軍を

緑の島の 有聲さ
愛林デー 壬生 辛

愛林デー 何と美しい言葉だらう、
林を受する事、自己の為ばかりでな
く廣く公共の為となる、暖い此の島
では夏は暑さしりざとなり又暴風の

専ら綴り

春が来た 一年 小祝です

春が来た、楽しい春が来ました。

春の月からいふと春は三月から

五月までだが私は四月になって

始めて春になったわうな気がす

る、それにふんだか私は自分に

も春が来たやうな気がする、先

れは去年からの専修女學校に入

り度の希望が叶ったためであ

らう。
例年は三月になると春になった

防備とつて島の為には盡して呉れる。
私達の植えた松は學田の美觀をそへ
たものとも言はれ、又私達が二年にな
つた記念樹ともなる、公德心の厚い
人はど林を愛する事に務める、

東京から来た人々の第一の印象はま
つと海岸に繁茂してある樹木であら
う、あれも皆数十年前私達の為兄弟

の植えて下さつた木である、
私共は犧牲的勤働によつてありとあ
りゆる山野に樹木を植へて社会奉仕

の一つをし、世の為人の為盡さう、
小笠原島民の覺悟 名和田喜代春

我等が住む小笠原島は如何なる位置
にあるか、お道もなす、我が大日本帝

國の心臓にある若し其の心臓が襲は
れたら我等はどうする、心臓を防げの

聲は高まる、若し心臓をつかれたら死
ぬ、此の大事件、心臓に住む我等島民の

覺悟は如何。

やうな気がしたのだが今年はず

になつてもまだ早く四月になつ

て急に暖くなった、さういふも

う此頃では何かいようと思つて

も身体がだれてぬむたくばかり

なる、近所の犬や猫が如何にも

樂いさうにすやうとねむつてお

るのもう、見掛けるが犬や猫の

ねむたくちうのも無理はない、
仕事のある人間だとへこむな

ねむいもの、

		授業日数										
		三	四	二	数					日	業	授
總計	合計	高一	高二	合計	尋六	尋五	尋四	尋三	尋二	尋一	修業生	
三〇五	四〇	四〇		二六五		五四	五四	五〇	五四	五三	卒業生	
七三	二九		二九	四四	四四						卒業生	
											原級留置	
四	〇	〇	〇	四	〇	〇	一	一	〇	二	在籍合計	
三八二	六九	二九	四〇	三一三	四四	五四	五五	五一	五四	五五	優等生	
六六	一一	五	六	五五	五	一〇	一一	九	一〇	一〇	精勤生	
一二六	三三	一〇	二	九三	一四	一一	二〇	一〇	二〇	一八		

昭和八年年度學事統計 (昭和九年三月廿四日)

お作法 一年 菊池ヒサ子

「どうだね、朝起きて親に挨拶す
るの」と、才二回目の作法の時
聞かぬ。校長先生は私達にお
母方になりました。私は、はつ
しと。これで聞かされたのが二
度目だ。私は今迄親に朝の挨拶
をしない事がない。皆しーくと
だまってゐる。誰かやほりない
りーい。どうも困ったものだ。
作法で習ひたりそれを行な
うてはだめだ。と先生はおつー
り、私に考へた。先生に二度
も聞かれて恥かしい思ふすよ
りか、いばつて手を擧げられりや
うに明朝から始めようか。でも
なんだかきかい。「かたがと
らだ、等しいけれど。そーた
ら」お作法で先生にいわれた。
といはふ。さうだ明朝から始
ま行すよ。

春の夜や、いづまき、煙草枕許、優子
登校の思、等道遠き雨の朝、ゆき
わが部屋に机がけりの春や來ぬと子

學級編制表

大村高等小學校 (昭和九年四月)

分教場	校 本								學 級		受持教員
	第一學級	第二學級	第三學級	第四學級	第五學級	第六學級	第七學級	第八學級	計	單級	
尋常科第一學年	二六	二四	三二	二二	三〇	二五	一九	二〇一	男	二六	永田布祝
尋常科第二學年	三二	二九	二一	二八	二四	一八	二一	二〇五	女	三二	
尋常科第三學年	五八	五三	五三	五一	五四	四三	四〇	四〇六	計	七	横山芳枝
尋常科第四學年	五八	五三	五三	五一	五四	四三	四〇	四〇六			
尋常科第五學年	五八	五三	五三	五一	五四	四三	四〇	四〇六			菊池久子
尋常科第六學年	五八	五三	五三	五一	五四	四三	四〇	四〇六			
高等科第一學年	五八	五三	五三	五一	五四	四三	四〇	四〇六			藤川敏夫
高等科第二學年	五八	五三	五三	五一	五四	四三	四〇	四〇六			
計	二〇一	二〇五	四〇六	成	田	ま	さ				

二十三日
 二十四日
 二十五日
 二十七日
 四月 四日
 三日

寄

一 金五元也
 一 金拾元也
 一 金五元也
 一 金五元也
 一 金五元也
 一 金五元也
 一 金五元也
 右の通り多額の寄贈を戴きました。

終業式
 午前九時より卒業式を行いました。
 前島北鼻へ卒業生の謝恩汐干狩り挙行。
 廣瀬神社建設費の一部として職員生徒一同で金
 拾万円を寄附致しました。
 午前八時始業式を在一時より入学式
 受林にて高等科生徒一同旭山學田に植林に行
 贈
 補録会社従業員故岩田庄作氏の陰志を以て遺族より備品
 渡込贈次郎殿より亡母を在殿香奠返礼を在備品購入
 奥山秀松殿より 一般會計へ
 〇七先生より 學校備品購入費へ
 橋本手一部君より 運動會費へ
 黒川秀市君より 一般會計へ
 磯崎幸春君より 一般會計へ
 以上を以て厚く申上げます。

昭和九年四月第百四十五号

大村尋常小學校在り二編輯部

